

機関番号：11101
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2010
 課題番号：19520473
 研究課題名（和文） 「リスニングストレス」の理解阻害効果の解明とその対処方略の開発に関する基礎的研究
 研究課題名（英文） Basic Research into Debilitating Effects of “Listening Stress” and Coping Strategies Against It
 研究代表者
 野呂 徳治（NORO TOKUJI）
 弘前大学・教育学部・准教授
 研究者番号：90344580

研究成果の概要（和文）：本研究は、第二言語／外国語によるリスニング困難に伴って生起する「リスニング不安」を心理的ストレス理論に基づいて「リスニングストレス」として再構成し、その阻害の効果と対処方略の発達プロセスの解明を目指したものである。本研究結果から、リスニングストレスにより、認知的リスニング方略の援用が阻害され、それが理解を妨げ、さらなるストレスをもたらしていること、また、その対処方略としては、「明確化要求」及び「リスニングへの要求水準の低下」が最も頻繁に用いられ、それらはモデリング及び試行錯誤的学習により内在化が図られていることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The present study aimed to reformulate “listening anxiety,” which was known to accompany difficulties in second/foreign language (L2/FL) listening, as “listening stress,” on the basis of the psychological stress theories, and to explicate its debilitating effects and the developmental process of coping strategies against it. The research findings showed that listening stress harmed the use of the cognitive listening strategies, which deteriorated listening comprehension, causing further stress in turn. It was also revealed that “clarification request” and “lowering in expectation for one’s own listening” were most frequently used as coping strategies against listening stress and that they were internalized by L2/FL listeners through modeling and trial-and-error learning.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	400,000	120,000	520,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：英語教育学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：リスニング，ストレス，不安，理解阻害効果，対処方略，英語，第二言語習得，外国語教育

1. 研究開始当初の背景

従来、第二言語／外国語学習に関わる不安は、ある状況下で一時的に生起する心理状態である「状態不安 (state anxiety)」の中でも、ある特定の場面でのみその生起が観察される「特定場面不安 (situation-specific anxiety)」

として捉えられ、「言語学習不安 (language learning anxiety)」の名称で知られている。しかし、言語学習不安の枠組みでは、不安の予測や予防的方略に重点が置かれ、個別的、具体的な言語学習及び言語使用場面における認知的側面と情意的側面の関わりをダイ

ナミックにとらえることが難しく、このことは、特に、リアルタイムでの意味処理が要求されるリスニングにおいてはとりわけ重要な課題となっていた。

筆者は、本研究の構想時において、それまでリスニングプロセスに影響を与える情意的要因の一つとして認められてきた「リスニング不安 (listening anxiety)」に代わる要因として、リスニング困難場面において聞き手が経験する精神的な緊張や不安、あるいは欲求不満などを含めたストレスフルな心的状態を、心理的ストレス理論に基づき、包括的に「リスニングストレス(listening stress)」と名付け、心理的実在性のある独立した一つの構成概念として提案し、その妥当性の検証を試みていた。このリスニングストレスが、学習者のパーソナリティ/認知スタイルや英語の全般的運用能力と相乗的に作用し、学習者のリスニングを阻害する要因の一つになっていることは、筆者のそれまでの研究結果から示唆されていたが、具体的にどのような影響があるのか、また、そこにはどのようなメカニズムが存在するのか、さらには、第二言語/外国語学習者はどのようにそのストレスに対処しているのか、また、指導可能な対処方略はあり得るのかについては明らかにされていなかった。

2. 研究の目的

本研究は、第二言語/外国語としての英語のリスニングプロセスにおいて情意的側面が認知的側面に与える影響とそのメカニズムの解明を主なテーマとし、以下に掲げる項目を具体的研究目的とした。

- (1) 「リスニング不安」に代わる構成概念としての「リスニングストレス」の導入
- (2) 「リスニングストレス」の理解阻害効果及びそのメカニズムの解明とその対処方略としてのリスニングストラテジーの開発
- (3) 第二言語/外国語としての英語教育への、「リスニングストレス」の対処方略を中心とするリスニングストラテジーの導入による学習者中心のリスニング指導への転換

3. 研究の方法

- (1) リスニングストレス生起予備実験による理解阻害効果の検証

リスニングストレスの生起により、リスニングプロセスにおける「事実の聞き取り」、「推測」、「内容概括」、「応用/一般化」という異なる認知処理レベルによってその阻害効果は異なるという仮説を立て、その実

証データを得るための実験デザインとして、同程度の難易度で、異なる内容のリスニング材料を2つ用意し、その2つの間に難度のより高いリスニング材料を挿入することで受験者にストレスを生起させ、それが全体的な内容理解度に与える違い及び異なる認知処理レベルへの影響の違いをみるという手続きを考案した。この手続きに基づいて、比較的強いストレスを長期にわたって経験していると推測される英語圏(米国)の大学に在籍する日本人留学生を対象に、予備的なリスニングストレス実験及びアンケート調査を実施した。

- (2) リスニングストレス生起実験における遡及的発話思考プロトコル分析による理解阻害効果のメカニズムの解明

上述したリスニングストレス生起実験デザインに基づき、より詳細なデータの収集を目指して遡及的発話思考プロトコル分析を導入した。日本人大学生を対象に、リスニングストレス生起実験を行い、リスニング課題解答後に被験者にインタビューを実施し、被験者自身によるリスニングプロセスについての内省データの内容分析により、リスニングストレスの理解阻害効果のメカニズムの解明とそのモデル構築に取り組んだ。

- (3) リスニングストレス生起実験によるリスニング方略使用への阻害効果の解明

リスニングストレスの対処方略としてのリスニングストラテジー開発の基礎資料を得るために、心理的ストレス理論において一般に認められているストレスの認知処理に対する阻害効果の考え方にに基づき、リスニングストレスがリスニング方略の使用に与える可能性があると考えられる影響の分析・解明に取り組んだ。日本人大学生を対象に、リスニングストレス生起実験をおこない、リスニングストレスによる全般的な理解阻害と認知処理のタイプごとの理解阻害が、方略使用の阻害とどのように関連しているかを分析した。対象としたリスニング方略は、本研究の予備的研究において第二言語/外国語学習者がリスニング困難場面において用いていることが確認されたもののうち、問題中心の認知的方略が6つ、情動中心の情意的方略が6つの合計12の方略であった。

- (4) リスニングプロセスに関する面接調査及びアンケート調査によるリスニングストレス対処方略の特定及びその内在化プロセスの解明

リスニングストレスに対する指導可能なストラテジーの開発のための基礎資料を得ることを目的として、リスニングプロセスに

関するアンケート調査及び面接調査を実施した。日本人大学生を対象にリスニング困難、リスニングストレスの経験、ストレス対処方略についてアンケート調査及び面接調査を実施し、そのデータの内容分析により、学習者が意識的あるいは無意識的に用いていると考えられるリスニングストレス対処方略の特定と、その内在化プロセスの解明に取り組んだ。

4. 研究成果

(1) リスニングストレスの理解阻害効果

リスニングストレスの高まりにより、リスニング理解度の阻害効果と、認知処理レベルによって異なる影響が観察され、リスニングストレスの構成概念としての妥当性及び心理的実在性が検証されるとともに、リスニングストレス生起実験デザインの信頼性が示された。

(2) 理解阻害効果のメカニズムの解明

リスニング困難によりリスニングストレスが高まり、それにより理解が阻害され、さらにリスニングストレスが増大されるという循環的メカニズムの仮説が支持され、理解阻害効果のメカニズムのモデル構築にあたっての仮設的な理論を生成することができた。

国際応用言語学会での研究発表では、参加者から本研究の有用性を高く評価されると共に、今後の研究上の課題として被験者要因のコントロールについて有益な示唆が得られた。

(3) リスニング方略使用への阻害効果の解明

問題中心の認知的リスニング方略に対するリスニングストレスの阻害効果が観察され、特に「背景知識の活用」等のより高次の認知処理が要求されるリスニング方略に顕著であった。この結果は、認知処理の種類に応じた阻害効果のうち、特に、「推測」、「一般化／応用」の認知処理に阻害効果が顕著に見られたことと密接に関連していると考えられる。すなわち「背景知識の活用」はこれら2つの認知処理には不可欠なリスニング方略であるからである。

本研究成果を TESOL (外国語としての英語教育学会) 国際学会において発表し、参加者から研究方法及び結果の解釈について多くの質問・コメントが出され、本研究の今後の大きな可能性が示された。

(4) リスニングストレス対処方略の特定及びその内在化プロセスの解明

リスニング困難時に用いる問題中心の認

知的対処方略としては「明確化要求」が、また、情動中心の情意的対処方略としては「リスニングへの要求水準の低下」が最も頻繁に用いられているものであることが明らかになった。さらに、調査協力者はこれらの方略を、他者を見てまねる学習である「モデリング」及び体験から試行錯誤的に学ぶ「体験的学習」を通して内在化を図っていること、また、その内在化プロセスにおいては、「ソーシャルサポート」、「学習者としての自己分析」、「外国語学習への目的意識」が規定要因として働いていることが推察された。これらの知見は、リスニングストレスに対する指導可能なストラテジーの開発にあたって、特に、ストレスマネジメントに基づく理論構築の可能性を示す有益な基礎資料となると考えられる

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計4件)

① Tokuji NORO, Development of Coping Processes Against “Listening Stress”, 弘前大学教育学部紀要, 査読なし, 105 巻, 2011 年, 125-132

② Tokuji NORO, Debilitative Effects of “Listening Stress”: Focusing on the Use of Coping Strategies, 全国英語教育学会紀要 ARELE, 査読有り, 21 巻, 2010 年, 201-210

③ Tokuji NORO, The Debilitative Effects of “Listening Stress”: Exploring Its Mechanism by Stress-Inducing Experiment, 東北英語教育学会研究紀要, 査読有り, 29 巻, 2009 年, 115-129

④ Tokuji NORO, “Listening Stress” and Its Debilitative Effects: Understanding the Circular Mechanism, 弘前大学教育学部紀要, 査読なし, 101 巻, 2009 年, 157-167
<http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp/dspace/handle/10129/1826>

[学会発表] (計5件)

① Tokuji NORO, Listening Anxiety Revisited: Debilitative Effects of Stress on Strategy Use, The 44th Annual TESOL (Teachers of English to Speakers of Other Languages) Convention & Exhibit, 2010 年 3 月 26 日, 米国・ボストン市

② Tokuji NORO, The Circular Mechanisms of “Listening Stress”: Addressing Its Debilitative Effects, JACET 48th (2009) Annual Convention, 2009 年 9 月 5 日, 札幌市・北海学園大学

③ 野呂徳治, 「リスニングストレス」の理解阻害効果—リスニングストラテジーへの影響の観点から—, 第 35 回 (2009 年度) 全国

英語教育学会鳥取研究大会, 2009年8月9日,
鳥取市・鳥取大学

④ Tokuji NORO, Introducing “Listening Stress”: How Stress Affects Listening Comprehension, AILA 2008: The 15th World Congress of Applied Linguistics, 2008年8月29日, ドイツ・エッセン市

⑤ 野呂徳治, 「リスニングストレス」の理解阻害効果に関する予備的研究—ストレス誘発手法の開発を中心に—, 第34回(2008年度)全国英語教育学会東京研究大会, 2008年8月10日, 東京都・昭和女子大学

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野呂 徳治 (NORO TOKUJI)

弘前大学・教育学部・准教授

研究者番号: 90344580